

(再評価)

資料2-3-②

平成29年度第2回  
関東地方整備局  
事業評価監視委員会

# 利根川 総合水系環境整備事業 (中川・綾瀬川環境整備)

平成29年10月20日  
国土交通省 関東地方整備局

＜再評価＞

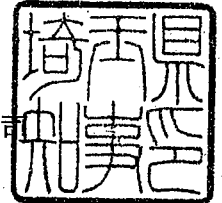
事業名 (箇所名)	利根川総合水系環境整備事業(中川・綾瀬川)	担当課 担当課長名	水管理・国土保全局河川環境課 五十嵐 崇博	事業 主体	関東地方整備局																				
実施箇所	埼玉県草加市、八潮市																								
該当基準	再評価実施後一定期間(3年間)が経過している事業																								
事業諸元	水環境: 浚渫、浄化導水、河川浄化施設の整備 水辺整備: 水辺空間の整備																								
事業期間	昭和55年度～平成32年度																								
総事業費 (億円)	343	残事業費(億円)	0.4																						
目的・必要性	<p>＜解決すべき課題・背景＞</p> <p>綾瀬川は、流域の急激な人口増加に伴い水質が悪化し、水質改善の必要性が高まっていた。また、中川・綾瀬川は市街地における貴重な水辺空間であり、河川敷は広場等の利用の他、散策等の憩いの場所として親しまれており、誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる整備の必要性が高まっている。</p> <p>＜達成すべき目標＞</p> <p>本事業を推進することにより、中川・綾瀬川の持つ水と緑豊かな河川環境への親しみがさらに生まれ、河川空間がより身近なものとなることで、地元自治体や住民からの期待は高まると考えられる。各事業の目標は以下の通り。          (水環境) 水質汚濁が進んでいた綾瀬川において、水環境の改善を図る。          (水辺整備) 活動目的に合わせて誰もが安全かつ容易に利用できるよう、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間を整備する。</p> <p>＜政策体系上の位置付け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政策目標: 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現</li> <li>・施策目標: 良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワーク形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を確保する。</li> </ul>																								
便益の主な根拠	<p>【内訳】</p> <p>水環境改善効果による便益: 945億円          河川利用推進の効果による便益: 165億円</p> <p>【主な根拠】</p> <p>(水環境) 綾瀬川: 280円/世帯/月、951,851世帯※          (水辺整備) 綾瀬川: 389円/世帯/月、108,731世帯 中川: 312円/世帯/月、33,137世帯</p>																								
事業全体の投資効率性	基準年度 平成26年度																								
残事業の投資効率																									
感度分析		<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">残事業(B/C)</td> <td style="text-align: center;">全体事業(B/C)</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>残事業費(+10%~-10%)</td> <td style="text-align: center;">6.6 ~ 7.2</td> <td style="text-align: center;">1.7 ~ 1.7</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>残工期(+10%~-10%)</td> <td style="text-align: center;">6.9 ~ 6.9</td> <td style="text-align: center;">1.7 ~ 1.7</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>便益(-10%~+10%)</td> <td style="text-align: center;">6.2 ~ 7.5</td> <td style="text-align: center;">1.6 ~ 1.9</td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>					残事業(B/C)	全体事業(B/C)			残事業費(+10%~-10%)	6.6 ~ 7.2	1.7 ~ 1.7			残工期(+10%~-10%)	6.9 ~ 6.9	1.7 ~ 1.7			便益(-10%~+10%)	6.2 ~ 7.5	1.6 ~ 1.9		
	残事業(B/C)	全体事業(B/C)																							
残事業費(+10%~-10%)	6.6 ~ 7.2	1.7 ~ 1.7																							
残工期(+10%~-10%)	6.9 ~ 6.9	1.7 ~ 1.7																							
便益(-10%~+10%)	6.2 ~ 7.5	1.6 ~ 1.9																							
事業の効果等	(水環境) 水質汚濁が進んでいた綾瀬川において、水環境が改善された。 (水辺整備) 活動目的に合わせて誰もが安全かつ容易に利用できるよう、まちづくりと一体となった魅力ある水辺空間の創出が期待できる。																								
社会経済情勢等の変化	綾瀬川は、流域の急激な人口増加に伴い水質が悪化し、水質改善の必要性が高まっていた。また、中川・綾瀬川は市街地における貴重な水辺空間であり、河川敷は広場等の利用の他、散策等の憩いの場所として親しまれており、誰もが安心して水辺や自然とふれあう事のできる整備の必要性が高まっている。																								
事業の進捗状況	(水環境) H21年度に事業完了 (水辺整備) 綾瀬川では、H19年度から23年度までに事業が完了し、管理用通路、ワンドの整備等により、地域における水辺の交流拠点の整備、ネットワークの形成を図った。 中川では、子どもたちの河川利用の促進、体験活動場として水辺の楽校(ワンド、堰、管理用通用)を整備している。																								
事業の進捗の見込み	・今後の実施の目処、進捗の見通しについて特に大きな支障はない。 ・今後も事業実施にあたっては、社会情勢等の変化に留意しつつ、関係機関や地元関係者等との調整を十分に行い実施する。																								
コスト縮減や代替案立案等の可能性	・現場発生土(掘削土)を築堤材料として再利用によるコスト縮減を行った。 ・技術開発の進展に伴う新工法の採用等の可能性を探るなど一層のコスト縮減に努める。 ・維持管理にあたっては地元自治体や市民との協働によりコスト縮減に努める。																								
対応方針	継続																								
対応方針理由	中川・綾瀬川は市街地における貴重な水辺空間となっている。河川敷は広場等の利用の他、散策等の憩いの場所として親しまれており、沿川自治体からも河川環境整備の促進要望も高いことから、引き続き河川利用の促進を図る必要がある。																								
その他	<p>＜※印の説明＞費用対効果分析等に係る項目は平成23年評価時点のもので、現計画の総事業費及び工期を用いて評価を行ったものである。</p> <p>＜第三者委員会の意見・反映内容＞特になし</p> <p>＜埼玉県の意見・反映内容＞埼玉県において、中川・綾瀬川の水環境の改善及び水辺の再生は、重要な課題の一つです。したがって、安全に水辺に親しむことができる空間を創出できる中川・綾瀬川環境整備の継続が必要不可欠です。          なお、実施にあたっては、コスト縮減に留意し、効果的な整備をお願いします。</p>																								



河 砂 第 3 3 9 号  
平成29年10月10日

国土交通省  
関東地方整備局長 様

埼玉県知事 上田 清司



関東地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成に係る  
意見照会について（回答）

平成29年9月29日付け国関整企画第112号の意見照会について、別紙のとおり回答します。



## 【河川事業】

事業名	「対応方針(原案)」案 ※	埼玉県知事の意見
利根川総合水系環境整備事業(中川・綾瀬川環境整備)	継続	埼玉県において、中川・綾瀬川の水環境の改善及び水辺の再生は、重要な課題の一つです。 したがって、安全に水辺に親むることができる空間を創出できる中川・綾瀬川環境整備の継続が必要です。 なお、実施にあたっては、コスト縮減に十分留意し、事業推進に努めていただきたい。

## 【道路事業】

事業名	「対応方針(原案)」案 ※	埼玉県知事の意見
一般国道17号 本庄道路	継続	本庄道路は、首都圏と上信・信越方面を結ぶ国土の大動脈である国道17号のバイパスとして、広域幹線道路ネットワークを形成する非常に重要な道路です。 本庄道路の整備により、沿線地域の交通渋滞の緩和や安全性の向上、地域経済の活性化が図られるだけでなく、大規模災害時における救助活動や支援物資の緊急輸送路としても期待しています。 早期全線開通に向け、引き続き、コスト縮減に十分留意し、事業推進を図っていただきたい。
一般国道17号 上武道路	継続	上武道路は、埼玉県北部から群馬県中部における地域間交流を支え、地域経済の活性化を図る重要な道路です。 平成29年3月に一部暫定2車線区間を含んで全線開通しましたが、引き続き、全線4車線化に向け、コスト縮減に十分留意し、事業推進に努めていただきたい。
一般国道17号 新大宮バイパス	継続	新大宮バイパスは、埼玉県中央部と東京都を結び、沿線地域の交通混雑の緩和や物流の効率化による生産性の向上に資する極めて重要な道路です。 全区間の完成に向け、引き続き事業推進に努めていただきたい。

※貴職の意見を踏まえ、関東地方整備局事業評価監視委員会へ諮る対応方針(原案)を作成するためのものです。